

海外研究者と交流期待

宮古商高
講演会
地域の波及効果学ぶ



宮古

宮古市磯鶏
の宮古商高

(高橋正浩校長、生徒425人)は12日、同校で全校生徒向けに国際リニアコライダー(ILC)講演会を開き、地域への経済波及効果などを学んだ。同校生徒が運営する「宮商デパート」では、今年初めて外国人客を呼んで英語接客を実践。誘致が実現した場合、本県に定住する外国人研究者との交流に備える。

県の事業の一環で、県科学ILC推進室の植野歩未(あゆみ)ILC推進課長が講演。本県への誘致が実現した場合、ピーク時で約35000人の外国人研究者が岩手、宮城両県に定住する見込みと説明し「週末のアクティビティーなどで沿岸部を訪

れることもあり、多文化共生社会に向けた準備が必要だ」と訴えた。

情報科2年の山本遥葵(はるか)さんは「これからは日本以外の文化も深く学んでいく

い。国際的な研究施設で海外の方も多く訪れるそうなので、岩手の復興にも役立ってほしい」と願った。

宮古商高は、県が指定する県内8校のILCモデル推進校の一つ。同校生徒は今後、10月10日に外国人への英語接客を学び、同27日の宮商デパートで外国人客に実践する。



講演を聞いてILCの理論や経済波及効果を学ぶ宮古商高生徒